

香りを楽しむ春の草花

皆さんが春を感じるのはどんな時でしょうか？私は、ジンチョウゲの甘い香りがどこからともなく漂ってくると、「おっ、今年も春がやってきたな！」と爽やかな気分になります。植物にとっての香りは、送粉者の昆虫を誘ったり、反対に、害虫に食べられるのを防いだりと、生きるための仕掛けにほかなりません。しかしながら、私たちはそれらから癒しや元気をもらうことができます。この春、ぜひ香りを嗅いでみていただきたいイチオシの草花をご紹介します。



ウシハコベ(ナデシコ科)

畑の周りなどに群生するハコベの仲間。雌しべの先が5つに分かれているのが特徴です。ウシハコベをはじめ、足元に咲く雑草の中にも、花がほんのりと香る種類があります。



キュウリグサ(ムラサキ科)

ワスレナグサの仲間でもっとも身近に見られる雑草の一つ。小判型の葉っぱをちぎって揉んでみると、不思議なことにキュウリそっくりの香りがあり、名前の由来にもなっています。



ノジスミレ(スミレ科)

スミレの仲間の中には、強い香りを持つ種類があります。園芸種のニオイスミレが有名ですが、日本の野生種であるノジスミレも負けてはいません。花はとても甘い香りがします。



ニオイタチツボスミレ
(スミレ科)

雑木林内の開けた空間や尾根などで見られるスミレの仲間。花に顔を近づけるとわずかに香ります。香りの強さは個体ごとに差があり、よく香る花に出会えると当たりを引いた気分です。



セキシヨウ(シオウブ科)

水路や湧水湿地などに群生する常緑の植物。葉っぱの隙間から淡黄色の花穂が顔を出しています。葉っぱをちぎると、同じ仲間の「菖蒲」とよく似た芳香があります。ぜひお試しあれ！



ハルガヤ(イネ科)

明治時代に牧草として導入され、芝生などで見られる外来雑草。草全体にクマリンを含み、乾燥するとよく香ります。草刈りの後には、桜餅のような独特な香りが辺りに漂っています。